

2020 年 6 月 26 日

【ニトリホールディングス（9843）：2021 年 2 月期第 1 四半期決算報告】

6 月 25 日にニトリホールディングス（9843）が 2021 年 2 月期第 1 四半期決算を公表し、即日決算説明会を開催したので、その報告を行う。

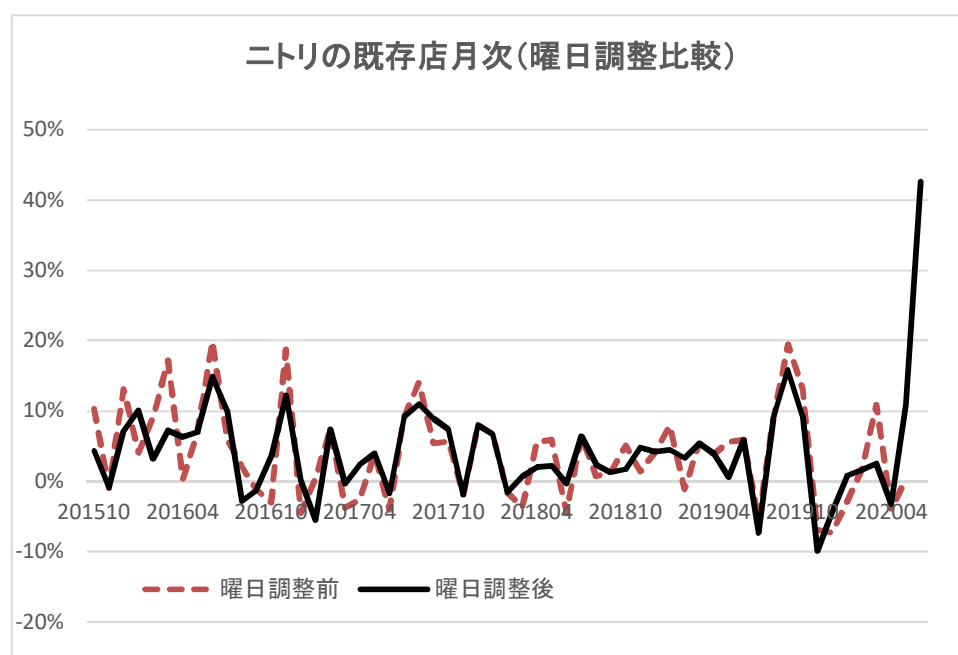
2021 年 2 月期第 1 四半期決算は 3.9%増収、22.3%営業増益となった。これは 6 月 18 日の日経観測に対してそれぞれ若干のオンであるが、特に大きなサプライズはないものであった。既存店が 2.0%増と堅調であったことに加え、仕入れにかかる為替が 6.6 円の円高となったこと、世間の情勢から広告宣伝費を抑制（12%減）したことや国内外の出張費や交際費、会議費が使えなかったことから大幅な増益となった。

銘柄名	ニトリホールディングス	コード	9843										
株価(2020年6月25日)	20,715 円			PBR(20/2実)	4.16 倍	ROE 予	13.5%						
株数	112,467 千株			配当利回り(21/2予)	0.6%								
配当	115 円			時価総額	23,298 億円								
発行済み株式数	114,443 千株			株主資本	560,571 百万円								
自己株式	1,976 千株			BPS	4,984 円								
決算期	数値区分	売上高	伸率	営業利益	伸率	経常利益	伸率	純利益	伸率	EPS	PER	月次平均	
(連結)		百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	倍	既存店	
19/2 2H	実績	306,437	6.4	44,889	-0.8	46,294	0.2	30,222	3.5	268.7	-		
20/2 1H	実績	321,598	6.6	55,577	-0.6	56,540	-0.4	36,847	-2.9	327.6	-		
20/2 2H	実績	320,675	4.6	51,901	15.6	52,982	14.4	34,548	14.3	307.2	-		
21/2 1H	会予初	318,900	-0.8	57,700	3.8	57,900	2.4	39,100	6.1	347.7	-		
	ARJ 予	363,219	12.9	81,268	46.2	81,913	44.9	55,369	50.3	492.3	-		
	ARJ 予(旧)	335,874	4.4	67,609	21.6	68,409	21.0	45,834	24.4				
21/2 2H	会予初	334,300	4.2	54,500	5.0	55,400	4.6	36,600	5.9	325.4	-		
	ARJ 予(不変)	336,735	5.0	51,656	-0.5	52,756	-0.4	35,347	2.3	314.3	-		
2016/2期	実績	458,140	9.8	73,039	10.2	75,007	10.4	46,969	13.3	417.6	49.6	3.2%	
2017/2期	実績	512,958	12.0	85,776	17.4	87,563	16.7	59,999	27.7	533.5	38.8	5.5%	
2018/2期	実績	572,060	11.5	93,378	8.9	94,860	8.3	64,219	7.0	571.0	36.3	2.9%	
2019/2期	実績	608,131	6.3	100,779	7.9	103,053	8.6	68,180	6.2	606.2	34.2	2.7%	
2020/2期	実績	642,273	5.6	107,478	6.6	109,522	6.3	71,395	4.7	634.8	32.6	2.3%	
2021/2期	会予初	653,200	1.7	112,200	4.4	113,300	3.4	75,700	6.0	673.1	30.8	-1.4%	
	ARJ 予	699,954	9.0	132,924	23.7	134,669	23.0	90,715	27.1	806.6	25.7	7.2%	
	ARJ 予(旧)	672,609	4.7	119,264	11.0	121,164	10.6	81,180	13.7	721.8	28.7	3.0%	
20/2 1Q	実績(3ヵ月)	167,332	6.1	30,431	0.0	30,722	0.1	20,348	3.2	-	-	4.9%	
20/2 2Q	実績(3ヵ月)	154,266	7.1	25,146	-1.2	25,818	-1.0	16,499	-9.5	-	-	3.1%	
20/2 3Q	実績(3ヵ月)	159,900	8.9	28,895	30.5	29,503	28.9	20,660	46.9	-	-	8.5%	
20/2 4Q	実績(3ヵ月)	160,775	0.7	23,006	1.1	23,479	0.3	13,888	-14.0	-	-	-2.9%	
21/2 1Q	実績(3ヵ月)	173,780	3.9	37,216	22.3	37,361	21.6	25,519	25.4	-	-	2.0%	
	日経(6/18)	172,352	3.0	37,000	21.6	37,300	21.4	24,991	22.8	-	-		
21/2 2Q	ARJ 予想	189,439	22.8	44,052	75.2	44,552	72.6	29,850	80.9	-	-	20.8%	
	ARJ 予(旧)	163,522	6.0	30,609	21.7	31,109	20.5	20,843	26.3	-	-	4.0%	
21/2 3Q	ARJ 予想	163,098	2.0	26,617	-7.9	27,217	-7.7	18,235	-11.7	-	-	0.0%	
21/2 4Q	ARJ 予想	173,637	8.0	25,039	8.8	25,539	8.8	17,111	23.2	-	-	6.0%	

同社では今期の既存店の前提を上期 3.8%減、下期 1.0%増と置いている。それに対して第 1 四半期が 2.0%増と上振れたが、すでに公表されている 6 月の月次は 47.4%増とまさに自粛解除で顧客が殺到した状況となっている。これは一人 10 万円の給付金があったことや、旅行代や外食費が回ってきたと会社側では考えており、比較的早期に収束すると見ている。実際問題、足許はすでに 30%増程度に落ちてきているようで、8 月までには収束し、8 月は

前年度の消費税増税の駆け込み需要の反動でマイナスもあるとしている。それでも第 2 四半期の既存店は当クラブで 20.8%増と置いて、第 2 四半期決算の 3 ヶ月は 22.8%増収、75.2%営業増益予想とした。

今期に関してはほぼ大幅増益は約束されたような状況であるが、問題は同社の最大の売りである連続増収増益に関してである。すでに前期で 33 期連続増収増益は上場企業トップであり、この栄冠は是が非でも守りたいというのが似鳥さんの悲願であるはず。このまま素直に業績を出してしまうと、さすがに来期はどうあがいても減益となる。むしろ、一体今年度の収益をどうコントロールするのかが心配であった。手段としては、徹底的に設備投資を行うことや什器備品費を積み上げて来期の負担を軽くすることはこれまでも行ってきた。また、決算期末に大量に広告宣伝費を投入することなども、今期の利益を抑えて来期の利益を引き上げる手段となるのではないかと考えていた。しかし、設備投資の積極化はもっと世の中が弱ってくる早くても来期、場合によってはさ来期となる模様。



そこで、説明会において来期の増益についてどう考えるかと似鳥氏に質した。すると、そこが一番頭の痛いところだが、ユニクロに代わってか、ユニクロ同様にかは聞き取れなかったが、ニトリは今やいわゆるデスティネーションストアの地位を獲得しており、今後も十分顧客数が増えるので、実は心配していないというものであった。デスティネーションストアとは、広範なカテゴリーの商品に対して購買動機を持った消費者がまずは行ってみる店舗というものである。

同社店舗は現在、若い消費者には圧倒的に支持を得ているが、実は10年、20年前の店舗を知っている高齢者は足が遠ざかっていた。しかし、今回のコロナで再び訪れてみると、かつてとは様変わりしている店舗に対して、改めて見直して顧客化するようである。また、この第1四半期では通販が40%増となっており、店舗とネットの融合が極めて順調である点も強気の背景であると述べている。

以上から考えて、今期の利益水準を無理に落とさずとも、来期は低水準ではあろうが、増益維持は十分可能と考える。

投資判断

このところ同社は、決算発表の度に投資家にサプライズを与えるほど、順調に物事が進んでいる。これは、まさに世の中で大変なことが起こったときほど、実力が発揮されることを地で行くようなものであろう。

今年になって同社株は大幅な上昇を示しているが、現状で当クラブの今期予想からはじいたPERは25.7倍にすぎない。よって、レーティングはBUY継続であるが、場合によっては30倍台前半のPERで評価される可能性もあろう。そうすると、実は7&iの時価総額(6月25日30,866億円)も射程圏に入り、小売業でユニクロ(65,861億円)に次ぐ2位の位置に顔を出す可能性もあろう。もっとも、さすがに2位が完全に定着するにはまだ2-3年の期間は要するものとは考えられるが。

週足・売買高チャート



(C)QUICK Corp.

注意事項

当レポートの株式に関する記述は、投資の勧誘を目的としたものではありません。情報の内容も私の観測であり、不確定要素を多く含みます。当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社では一切の責任を負いません。投資判断はすべて自己責任にてお願い致します。